

参 考 资 料

1 水質汚濁に係る環境基準について（抜粋）

（昭和46年12月28日）
（環境庁告示第59号）

改正 昭和49年9月30日環境庁告示第63号 昭和50年2月3日環境庁告示第3号

公害対策基本法（昭和42年法律第132号）第9条の規定に基づく水質汚濁に係る環境基準を次のとおり告示する。

水質汚濁に係る環境基準について

公害対策基本法第9条による公共用水域の水質汚濁に係る環境上の条件につき人の健康を保護しおよび生活環境（同法第2条第2項で規定するものをいう。以下同じ。）を保全するうえで維持することが望ましい基準（以下「環境基準」という。）は、次のとおりとする。（昭和45年4月21日設定）

第1 環境基準

公共用水域の水質汚濁に係る環境基準は、人の健康の保護および生活環境の保全に関し、それぞれ次のとおりとする。

1 人の健康の保護に関する環境基準

人の健康の保護に関する環境基準は、全公共用水域につき、別表1の項目の欄に掲げる項目ごとに、同表の基準値の欄に掲げるとおりとする。

2 生活環境の保全に関する環境基準

(1) 生活環境の保全に関する環境基準は、各公共用水域につき、別表2の水域類型の欄に掲げる水域類型のうち当該公共用水域が該当するものとして(2)により指定する水域類型ごとに、同表の基準値の欄に掲げるとおりとする。

(2) 各公共用水域が該当する水域類型の指定は、環境基準に係る水域および地域の指定権限の委任に関する政令（昭和46年政令第159号）の別表に掲げる公共用水域については別途環境庁長官が行い、その他の公共用水域については同政令の定めるところにより都道府県知事が行うものとする。

別表 1 人の健康の保護に関する環境基準

項目	カドミウム	シアン	有機リン	鉛	クロム(六価)	ヒ素	総水銀	アルキル水銀	P C B
基準値	0.01 ppm 以下	検出されないこと。	検出されないこと。	0.1 ppm 以下	0.05 ppm 以下	0.05 ppm 以下	0.0005 ppm 以下	検出されないこと。	検出されないこと。
測定方法	日本工業規格 K 0102 (以下この表、別表 2 及び附表 2 において「規格」という。) 40 に掲げる方法	規格 29.1.2 及び 29.3 に掲げる方法	規格 23 に掲げる方法 (ただし、メチルジメトンについては薄層クロマトーモリブデナム青法)	規格 39 に掲げる方法	規格 51.2 に掲げる方法	規格 48 に掲げる方法	原子吸光光度法	ガスクロマトグラフ法及び薄層クロマトグラフ分離-原子吸光光度法の両方法	ガスクロマトグラフ法

備考

- 1 基準値は最高値とする。ただし、総水銀に係る基準値については、年間平均値とする。
- 2 有機リンとは、パラチオン、メチルパラチオン、メチルジメトン及び E P N をいう。
- 3 「検出されないこと」とは、測定方法の欄に掲げる方法により測定した場合において、その結果が当該方法の定量限界を下回ることをいう。別表 2 において同じ。
 なお、アルキル水銀の項目については、ガスクロマトグラフ法及び薄層クロマトグラフ分離-原子吸光光度法の両方法によってアルキル水銀を検出した場合以外の場合をいうものとする。
- 4 総水銀に係る基準値は、河川においてその汚染が自然的原因によることが明らかである場合に限り、0.001 ppm 以下とする。
- 5 薄層クロマトーモリブデナム青法とは、附表 1 に掲げる方法をいう。
- 6 原子吸光光度法とは、附表 2 に掲げる方法をいう。
- 7 アルキル水銀についてのガスクロマトグラフ法及び薄層クロマトグラフ分離-原子吸光光度法とは、それぞれ附表 3 に掲げる方法をいう。
- 8 P C B についてのガスクロマトグラフ法とは、附表 4 に掲げる方法をいう。

別表2 生活環境の保全に関する環境基準

1 河 川

(1) 河川（湖沼を除く。）

項目 類型	利用目的 の適応性	基 準 値					該当水域
		水素イオン濃度 (pH)	生物化学的酸素要求量 (BOD)	浮遊物質 量(SS)	溶存酸素 量(DO)	大陽菌群数	
AA	水道1級 自然環境 保全およびA以下の欄に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	1ppm 以下	25ppm 以下	7.5ppm 以上	50MPN/ 100ml以下	第1の 2の(2) により 水域類 型ごと に指定 する水 域
A	水道2級 水産1級 水浴およびB以下の欄に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	2ppm 以下	25ppm 以下	7.5ppm 以上	1,000MPN/ 100ml以下	
B	水道3級 水産2級 およびC以下の欄に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	3ppm 以下	25ppm 以下	5ppm 以上	5,000MPN/ 100ml以下	
C	水産3級 工業用水 1級およびD以下の欄に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	5ppm 以下	50ppm 以下	5ppm 以上	—	
D	工業用水 2級農業 用水およびEの欄 に掲げるもの	6.0以上 8.5以下	8ppm 以下	100ppm 以下	2ppm 以上	—	
E	工業用水 3級 環境保全	6.0以上 8.5以下	10ppm 以下	ごみ等の 浮遊が認められ ないこと	2ppm 以上	—	
測定方法		規格8に 掲げる方 法	規格16 に掲げる 方法	規格10. 2.1に掲 げる方法	規格24 に掲げる 方法	最確数による定量法	

備 考

- 1 基準値は、日間平均値とする（湖沼、海域もこれに準ずる。）。
- 2 農業用利水点については、水素イオン濃度 6.0 以上 7.5 以下、溶存酸素量 5 ppm 以上とする（湖沼もこれに準ずる。）。
- 3 最確数による定量法とは、次のものをいう（湖沼、海域もこれに準ずる。）。

検水 10 ml、1 ml、0.1 ml、0.01 ml…… のように連続した 4 段階（試料量が 0.1 ml 以下の場合は 1 ml に希釈して用いる。）を 5 本ずつ BGLB 醱酵管に移殖し、35～37℃、48±3 時間培養する。ガス発生を認めたものを大腸菌群陽性管とし、各試料量における陽性管数を求め、これから 100 ml 中の最確数を最確数表を用いて算出する。この際、検水はその最大量を移殖したものの全部かまたは大多数が大腸菌群陽性となるように、また最小量を移殖したものの全部かまたは大多数が大腸菌群陰性となるように適当に希釈して用いる。なお、試料採取後、直ちに試験ができないときは、冷蔵して数時間以内に試験する。

- 注 1 自然環境保全：自然探勝等の環境保全
- 2 水 道 1 級：ろ過等による簡易な浄水操作を行なうもの
" 2 級：沈澱ろ過等による通常の浄水操作を行なうもの
" 3 級：前処理等を伴う高度の浄水操作を行なうもの
 - 3 水 産 1 級：ヤマメ、イワナ等貧腐水性水域の水産生物用ならびに水産 2 級および水産 3 級の水産生物用
" 2 級：サケ科魚類およびアユ等貧腐水性水域の水産生物用および水産 3 級の水産生物用
" 3 級：コイ、フナ等、 β -中腐水性水域の水産生物用
 - 4 工業用水 1 級：沈澱等による通常の浄水操作を行なうもの
" 2 級：薬品注入等による高度の浄水操作を行なうもの
" 3 級：特殊の浄水操作を行なうもの
 - 5 環 境 保 全：国民の日常生活（沿岸の遊歩等を含む。）において不快感を生じない限度

(2) 湖 沼

(天然湖沼および貯水量 1,000 万立方メートル以上の人工湖)

項目 類型	利用目的 の適応性	基 準 値					該当水域
		水素イオン濃度 (pH)	化学的酸素要求量 (COD)	浮遊物質 量 (SS)	溶存酸素 量 (DO)	大腸菌群数	
AA	水道1級 水産1級 自然環境 保全およびA以下の欄に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	1ppm 以下	1ppm 以下	7.5ppm 以上	50 MPN/ 100 ml以下	第1の 2の(2) により 水域類 型ごと に指定 する水 域
A	水道2、 3級 水産2級 水浴およびB以下の欄に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	3ppm 以下	5ppm 以下	7.5ppm 以上	1,000 MPN/ 100 ml以下	
B	水産3級 工業用水 1級 農業用水 およびC の欄に掲 げるもの	6.5以上 8.5以下	5ppm 以下	15ppm 以下	5ppm 以上		
C	工業用水 2級 環境保全	6.0以上 8.5以下	8ppm 以下	ごみ等の 浮遊が認 められない こと。	2ppm 以上		
測定方法		規格8に 掲げる方 法	規格13 に掲げる 方法	規格10. 2.1に掲 げる方法	規格24 に掲げる 方法	最確数による定量法	X
備 考 水産1級、水産2級および水産3級については、当分の間、浮遊物質量の項目の基準値は適用しない。							

注 1 自然環境保全：自然探勝等の環境保全

2 水道1級：ろ過等による簡易な浄水操作を行うもの

水道2、3級：沈澱ろ過等による通常の浄水操作、または、前処理等を伴う高度の浄水操作を行うもの

3 水産1級：ヒメマス等貧栄養湖型の水域の水産生物用ならびに水産2級および水

産 3 級の水産生物用

水 産 2 級：サケ科魚類およびアユ等貧栄養湖型の水域の水産生物用ならびに水産 3 級の水産生物用

” 3 級：コイ、フナ等富栄養湖型の水域の水産生物用

4 工業用水 1 級：沈澱等による通常の浄水操作を行なうもの

” 2 級：薬品注入等による高度の浄水操作、または、特殊な浄水操作を行なうもの

5 環 境 保 全：国民の日常生活（沿岸の遊歩等を含む。）において不快感を生じない限度

2 海 域

項目 類型	利用目的 の適応性	基 準 値					該当水域
		水素イオン 濃度 (pH)	化学的酸 素要求量 (COD)	溶存酸素 量(DO)	大腸菌群数	n-ヘキ サン抽出 物質(油 分等)	
A	水産1級 水浴 自然環境 保全およびB以下の欄に掲げるもの	7.8以上 8.3以下	2ppm 以下	7.5ppm 以上	1,000 MPN/ 100ml以下	検出され ないこと。	第1の 2の(2) により 水域類 型ごと に指定 する水 域
B	水産2級 工業用水 およびCの欄に掲げるもの	7.8以上 8.3以下	3ppm 以下	5ppm 以上	—	検出され ないこと。	
C	環境保全	7.0以上 8.3以下	8ppm 以下	2ppm 以上	—	—	
測定方法		規格8に 掲げる方 法	規格13 に掲げる 方法(た だし、B 類型の工 業用水お よび水産 2級のう ちノリ養 殖の利水 点におけ る測定方 法はアル カリ性法)	規格24 に掲げる 方法	最確数による定量法	n-ヘキ サン抽出 法	X

備 考

1 水産1級のうち、生食用原料カキの養殖の利水点については、大腸菌群数70 MPN/100 ml以下とする。

2 アルカリ性法とは、次のものをいう。

検水50mlを正確に三角フラスコにとり、水酸化ナトリウム溶液(10%)1mlを加え、次にN/100過マンガン酸カリウム溶液10mlを正確に加えたのち、沸騰した水浴中に正確に20分放置する。その後ヨウ化カリウム溶液(10%)1mlと4%窒化ナトリウム溶液1滴を

加え、冷却後、稀硫酸（2：1）0.5 ml を加えてヨウ素を遊離させて、それを力価の判明しているN/100チオ硫酸ナトリウム溶液で澱粉を指示薬として滴定する。同時に検水の代わりに蒸留水を用い、同様に処理した空試験値を求め、次式によりCOD値を計算する。

$$\text{COD}(\text{O}_2 \text{ ppm}) = 0.08 \times [(b) - (a)] \times f \text{Na}_2\text{S}_2\text{O}_3 \times 1000/50$$

(a) : N/100 チオ硫酸ナトリウム溶液の適定値 (ml)

(b) : 蒸留水について行なった空試験値 (ml)

fNa₂S₂O₃ : N/100 チオ硫酸ナトリウム溶液の力価

3 n-ヘキサン抽出法とは、附表5に掲げる方法をいう。

注 1 自然環境保全；自然探勝等の環境保全

2 水産 1級：マダイ、ブリ、ワカメ等の水産生物用および水産2級の水産生物用

〃 2級：ボラ、ノリ等の水産生物用

3 環境保全：国民の日常生活（沿岸の遊歩等を含む。）において不快感を生じない

限度

2 県内公共用水域が該当する水質汚濁に係る環境基準の水域類型

(1) 河 川

水 域	水域類型	達成期間	指定年月日	備 考
多摩川中流(拝島橋から調布堰まで)	C	ハ	4 5. 9. 1	4 5. 9. 1 閣議決定
多摩川下流(調布堰より下流)	D	ハ	4 5. 9. 1	〃
鶴見川上流(鳥山川合流点より上流)	D	ハ	4 5. 9. 1	〃
鶴見川下流(鳥山川合流点より下流)	E	ハ	4 5. 9. 1	〃
入 江 川(全域)	E	ハ	4 7. 3. 3 1	県告示第 4 0 3 号
帷 子 川(全域)	E	ハ	4 7. 3. 3 1	〃
大 岡 川(全域)	E	ハ	4 7. 3. 3 1	〃
官 川(全域)	E	ハ	4 7. 3. 3 1	〃
侍 従 川(全域)	E	ハ	4 7. 3. 3 1	〃
鷹 取 川(全域)	E	ハ	4 7. 3. 3 1	〃
平 作 川(全域)	E	ハ	4 7. 3. 3 1	〃
松 越 川(全域)	E	ハ	5 5. 9. 3 0	県告示第 7 6 3 号
下 山 川(全域)	E	ロ	4 7. 3. 1 7	県告示第 2 5 0 号
森戸川(河口が葉山町に係るものの全域)	E	ハ	4 7. 3. 3 1	県告示第 4 0 3 号
田 越 川(全域)	E	ハ	4 7. 3. 1 7	県告示第 2 5 0 号
滑 川(全域)	E	ハ	4 7. 3. 1 7	〃
神 戸 川(全域)	E	ハ	4 7. 3. 1 7	〃
境 川(全域)	D	ハ	4 7. 3. 1 7	〃
引 地 川(全域)	D	ハ	4 7. 3. 1 7	〃
相模川上流(2)(柄杓流川合流点から相模湖大橋(相模ダム)まで)	A	ハ	4 8. 3. 3 1	環境庁告示第 2 1 号
相模川上流(3)(相模湖大橋(相模ダム)から城山ダムまで)	A	イ	4 8. 3. 3 1	〃
相模川中流(城山ダムから寒川取水堰まで)	A	ロ	4 5. 9. 1	4 5. 9. 1 閣議決定
相模川下流(寒川取水堰より下流)	C	イ	4 8. 3. 3 1	環境庁告示第 2 1 号
金目川上流(土屋橋の上流端から上流の区域)	A	ハ	4 7. 3. 1 7	県告示第 2 5 0 号
金目川下流(土屋橋の上流端から下流の区域)	C	ハ	4 7. 3. 1 7	〃
葛 川(全域)	C	ハ	4 7. 3. 1 7	〃
中 村 川(全域)	C	ハ	4 7. 3. 1 7	〃
森戸川(河口が小田原市に係るものの全域)	D	ハ	4 7. 3. 1 7	〃
酒匂川上流(飯泉取水堰から上流の区域であつて、丹沢湖(三保ダム上流端から上流の滞水域)の区域に係る部分を除いたもの)	A	ロ	4 7. 3. 1 7 5 5. 3. 2 5	県告示第 2 5 0 号 県告示第 2 2 3 号

水 域	水域類型	達成期間	指定年月日	備 考
酒匂川下流（飯泉取水堰から下流の区域）	B	イ	55. 9.30	県告示第763号
山 王 川（全域）	E	ハ	47. 3.17	県告示第250号
早 川（全域）	A	ハ	47. 3.17	〃
新 崎 川（全域）	B	ハ	47. 3.17	〃
千 歳 川（全域）	B	ハ	47. 3.17	〃

注 達成期間は、次のとおりである。（以下同じ。）

- (1) 「イ」は、直に達成
- (2) 「ロ」は、5年以内で可及的速やかに達成
- (3) 「ハ」は、5年を超える期間で可及的速やかに達成

(2) 湖 沼

水 域	水域類型	達成期間	指定年月日	備 考
芦 ノ 湖（全域）	湖沼 A A	ハ	48. 3.30	県告示第281号
丹沢湖（三保ダム上流端から上流の滞水域）	湖沼 A	イ	55. 3.25	県告示第222号

(3) 海 域

水 域	水域類型	達成期間	指定年月日	備 考
東 京 湾 (1)	海域 C	イ	46. 5.25	46.5.25閣議決定
〃 (2)	〃 C	イ	〃	〃
〃 (3)	〃 C	ロ	〃	〃
〃 (4)	〃 C	イ	〃	〃
〃 (5)	〃 C	イ	〃	〃
〃 (6)	〃 C	イ	〃	〃
〃 (7)	〃 C	イ	〃	〃
〃 (8)	〃 C	イ	〃	〃
〃 (9)	〃 B	ハ	〃	〃
〃 (10)	〃 B	ロ	〃	〃
〃 (11)	〃 B	ロ	〃	〃
〃 (12)	〃 B	イ	〃	〃
〃 (13)	〃 B	ロ	〃	〃
〃 (14)	〃 B	ロ	〃	〃
〃 (15)	〃 B	ロ	〃	〃
〃 (16)	〃 A	ロ	〃	〃
〃 (17)	〃 A	イ	〃	〃
相 模 湾 (1)	〃 A	ハ	55. 3.25	県告示第222号
〃 (2)	〃 A	イ	〃	〃

3 県内河川の概要

番号	河川名	水源	県内総延長 (km)	県内流域面積 (km ²)
1	多摩川	秩父山塊	47.3	110.94
2	鶴見川	町田市丘陵地帯	81.5	312.67
3	入江川	横浜市鶴見区丘陵地帯	10.6	6.40
4	帷子川	横浜市旭区丘陵地帯	37.6	70.43
5	大岡川	横浜市港南区・磯子区丘陵地帯	28.27	34.96
6	宮川	横浜市金沢区丘陵地帯	3.9	9.14
7	侍従川	横浜市金沢区丘陵地帯	2.4	4.40
8	鷹取川	横須賀市北部丘陵地帯	2.0	2.30
9	平作川	横須賀市中央部丘陵地帯	11.0	26.06
10	松越川	横須賀市西部丘陵地帯	8.6	17.65
11	下山川	葉山町丘陵地帯	5.5	10.37
12	森戸川	逗子市丘陵地帯	2.0	6.97
13	田越川	逗子市丘陵地帯	6.16	13.33
14	滑川	鎌倉市丘陵地帯	7.6	11.87
15	神戸川	鎌倉市丘陵地帯	3.0	2.5
16	境川	城山町丘陵地帯	106.9	345.58
17	引地川	大和市丘陵地帯	280.3	86.93
18	相模川	富士山	272.3	930.52
19	金目川	丹沢山塊東部	104.9	532.54
20	葛川	中井町丘陵地帯	12.6	29.84
21	中村川	秦野市及び大井町	16.14	33.10

流入海域	主要支派川	河川の利用状況
東京湾 (川崎市、東京都)	平瀬川、三沢川、二ヶ領本川	(上水)、工水、漁業、農業用水
東京湾(横浜市)	矢上川、早瀬川、鳥山川、恩田川	農業用水
東京湾(横浜市)	足洗川	
東京湾(横浜市)	今井川、中堀川	
東京湾(横浜市)	日野川	
東京湾(平瀬湾) (横浜市)		
東京湾(平瀬湾) (横浜市)		
東京湾(横須賀市)		
浦賀水道 (横須賀市)		
相模湾(横須賀市)	竹川	
相模湾(葉山町)		
相模湾(逗子市)		
相模湾(逗子市)		
相模湾(鎌倉市)		
相模湾(鎌倉市)		
相模湾(藤沢市)	柏尾川、小松川	農業用水
相模湾(藤沢市)	蓼川	農業用水
相模湾(平塚市)	小出川、目久尻川、玉川、小鮎川、中津川、鳩川、串川、道志川、秋山川	上水、工水、漁業、農業用水、発電
相模湾(平塚市)	渋田川、大根川、室川、水無川、葛葉川	上水、農業用水
相模湾(大磯町)	不動川	農業用水
相模湾(二宮町)	藤沢川	農業用水

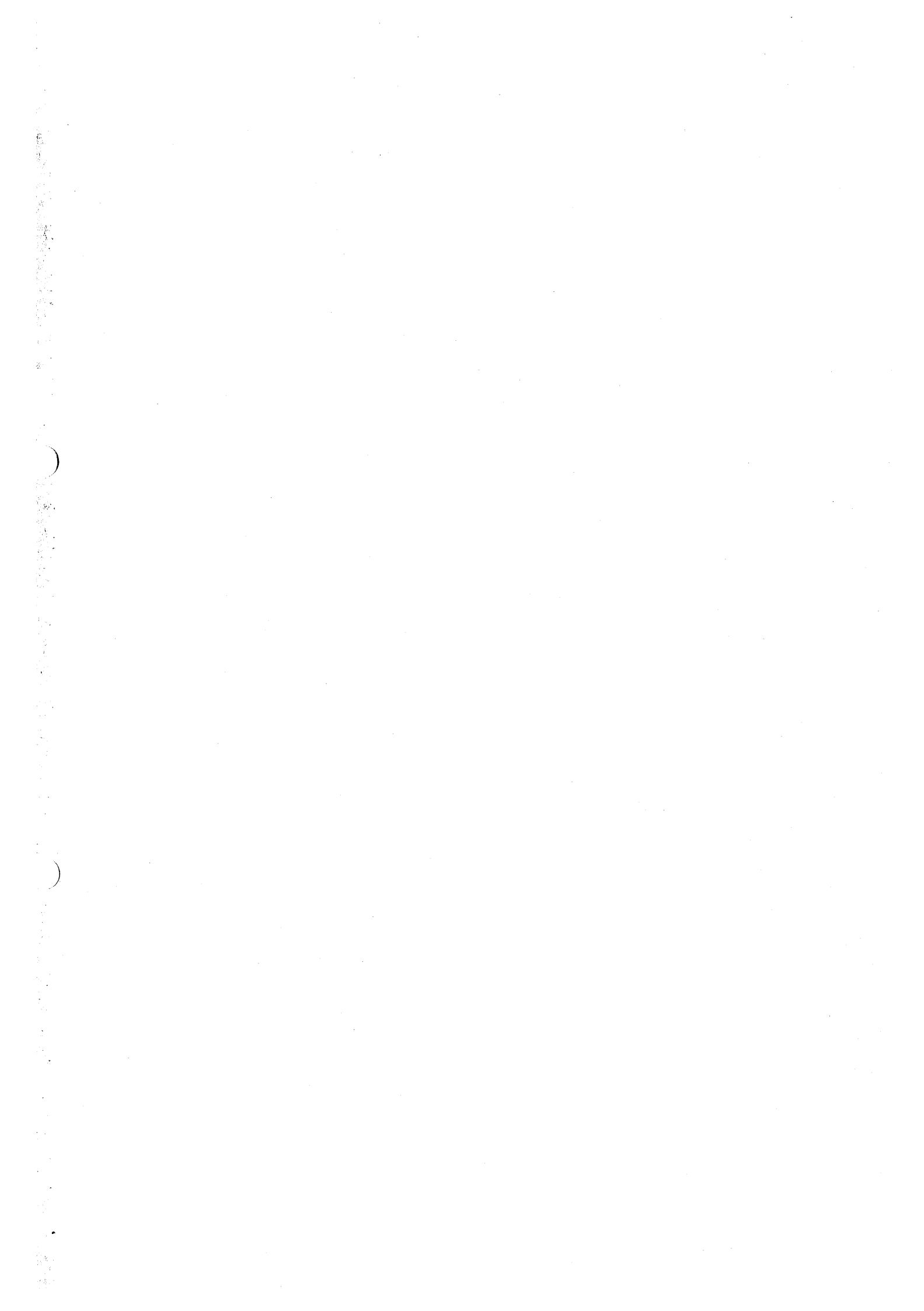
番号	河川名	水源	県内総延長 (km)	県内流域面積 (km ²)
22	森戸川	大井町丘陵地帯	5.5	15.06
23	酒匂川	富士山丹沢山塊西部	179.7	942.44
24	山王川	箱根山塊東部	9.5	29.00
25	早川	芦ノ湖	29.4	129.90
26	新崎川	箱根山塊南部	6.10	17.60
27	千歳川	箱根山塊南部	13.6	32.71

4 県内湖沼の概要

番号	湖沼名	所在地	周囲 (km)
1	相模湖	津久井郡相模湖町、 藤野町	11.0
2	津久井湖	津久井郡城山町、津久井町、相模湖町	22.5
3	芦ノ湖	足柄下郡箱根町	21.1
4	丹沢湖	足柄上郡山北町	19.8

流入海域	主要支派川	河川の利用状況
相模湾(小田原市)		農業用水
相模湾(小田原市)	狩川、川音川、鮎沢川、河内川	上水、漁業、農業用水、発電
相模湾(小田原市)	久野川	農業用水
相模湾(小田原市)	須雲川	上水、漁業、農業用水、発電
相模湾(湯河原町)		上水
相模湾(湯河原町)		上水、漁業

面積 (km ²)	最深部水深 (m)	貯水量 (万m ³)	利用状況
3.26	38.2	4,820	上水、工水、発電
2.47	50.0	5,470	上水、工水、発電
6.84	43.5	17,100	漁業、発電、(農業用水)
2.18	75.0	5,450	上水、工水、発電







資源を大切に

この本は 再生紙(故紙70%含有)を使用しています

